

## 自然はヘリテイジ 山から学んだ経営哲学

尾上昇さん

HAT-Jの評議員にして、日本山岳会の会長、日本山岳会東海支部の数々のヒマラヤ遠征を支えてこられたフィクサー、事業を展開される中、自然保護活動に対しての基金から寄付支援も行われている尾上昇さん。その長い山との付き合い歴を伺いました。

(インタビューと文：張晶子)

### ◆子ども時代はどんなお子さんでしたか？

—乳母日傘のお坊ちゃんでしたよ。四人兄弟の長男で、家業を継ぐ後継ぎとして、小学校から中学校に至るまで、何から何まで周囲に助けられ、自主性の無い、依頼心の強い子どもでしたね。

それが、転機が来たのは高校に入ってからです。名古屋の東海学園という中高一貫の男子校でしたが、何もかも楽しかったですね。友人と話すのも、先生との関係も。ここで初めて自我に目覚めた訳です。

中1の終わりころ野球部に入りますが、強くて部員も多く、私はレギュラーにはなれなかったんです。そこで剣道部に行きました。県の代表校になるような伝統のある部で、ここでの環境に揉まれました。高2で二段を取りました。

### ◆山に登るきっかけになったのは？

—私は昭和18年生まれですが、小学生3年生のころから父親にスキーに連れて行ってもらっていました。キャンプや山登りなどにも連れて行ってくれました。自然や雪山の原体験はそこにあったと思っています。高校生になってからは、剣道部の友人などと鈴鹿や北アルプスなどに出掛けていました。

日大に入学し、体育会の剣道部は無理というアドバイスを受けたので、山岳部に入りました。規律が厳しく、統制された集団で、「こんな世界があるのか！」と思いましたね。

### ◆山が好きだと最初に思ったのはいつのことですか？

—しかし、日大山岳部はリベラルで「しごき」はありませんでした。発想は合理的で、水も好きに飲んでいたし、冬山で1年生の荷が一番軽かった。2年・3年の荷は重い。訓練のための登山はしない。山がトレーニング。1年の冬は頸城山塊で2週間のスキー合宿。春は毛勝～剣のポーラーメソッドでの30日以上合宿でした。必然的に40～50Kgの荷物になる。自分で自分をしごいていましたね。

1年生が終わって、次の1年生が来た時、自分の成長に気付いたんですね。技術、精

神、いろいろな面で自信が着いていた。

仲間や先輩との山が楽しくてしかたありませんでした。大学では、毎朝山岳部登校です。お陰様で5年在籍です。

◆卒業後はどのような山を登られましたか？

—5年生のころ海外遠征への気持ちが湧いて来ました。ちょうど日大第二次グリーンランド遠征が卒業と同時だったので、参加しました。今 HAT-J の理事長の神崎さんも一緒でした。就職したのは、遠征から戻ってからでした。

名古屋へ戻り、日本山岳会東海支部に所属しました。1970年のマカルー遠征隊に参加し、ここで組織運営の面白さを知りました。人間管理、その技術、シェルパも含めて50人近い大きな隊でしたから、良い経験になりました。

その後は、家業、結婚、子ども、など、当時の趨勢として30代前半で激しい登山には終止符を打ちました。しかし、東海支部で遠征のオーガナイザーとして山に係り続けました。30くらいの登山隊を出して来ました。

東海支部は「ヒマラヤに行かざる者、東海に非ず」という「創始の心」を持つところ です。ローツェ南壁では総隊長をやりました。登攀隊長は田辺さんでした。あと10年は託したい登山家でした。今回の事故は辛く残念なことです。

この何年か、幼稚園の年長組の子どもを対象に「親と子の絆を結ぶ登山教室」をやっています。保護者同伴です。自分自身、幼い頃に自然に触れた体験が楽しかった記憶がありますから。日帰りで2~3時間くらいのハイキングですが、山で焼きソバや味噌汁を作る。自然の中での遊び方を親にも見せて知ってもらう。共に苦勞し、楽しむことで親御さんがとても喜んでくれます。最初はお母さんばかりでしたが、この頃はお父さんの参加が増えています。

仕事は現役です。やることは限が無いですが、人材を見つけて育成し、100%信頼して任せるといことはヒマラヤ登山と同じです。山から学んだ経営哲学と言えます。

◆10代から60代を経て、山が一番楽しかったのはいつごろですか？

—それは何と言っても日大山岳部時代ですね。オールラウンドでリベラルな日大流は楽しく充実したものでした。エベレストに末端から登るといのも日大流でしたね。

◆自然保護についてはどのようなお気持ちでしょうか？

—日本人に足りない感覚として、自然は「遺すべきヘリテイジ（遺産）」であるという意識が挙げられると思います。

カナダは自然保護では進んでいる国ですが、国立公園のパークワarden（レインジャー）は警察権も持っています。彼らは子どものあこがれの職業でもあります。アメリカ

のシェラクラブはシェラネバダの自然保護クラブですが、大統領選も左右するほどの力があります。政治に働きかける活動することと政党活動することは違います。国を動かすことも大切な自然を遺すためにはあって良いと思い「山の日」制定に取り組んでいます。

昔、御在所山にロープウェイが出来て人が増え、トイレが溢れて汚水が沢に流れ込んだ時は、採水調査をして改善を要求しました。HT-Jも強くなって良いんですよ。

- ◆名古屋からいらっしゃる短い時間を割いてくださった尾上さん。広い見識と強い信念を感じさせるお話ぶりは、まさにオールラウンドな日大流でした。